

学生公議

通信

NO. 16
68' 6. 29

東京教育大学

学生公議

本日の文学生大会に結集し

斗争の方針をみちとる

教育大のすべての学友諸君、とりわけストライキ闘争を闘い抜いている文学部学友諸君、調査費計上決定白紙撤回↓M.P.委解散↓筑波移転阻止をめざした我々のストライキ闘争は、すでに四日目を迎えている。しかしながら、この我々のストライキ闘争は、今こそその質的転換を遂行しているであらう。この斗いな、昨年の激化したストライキ闘争の縮小再生産をもつて終焉するな、夏休みをも旨も強固な長期的ストライキ体制として再確立されていくのだ。分岐点に、今我々は立たされていくのだ。

我々の「挑発的」な行動により、偶発的に生起するものではない。早大、法大、東大、京大等々の例に倣うように、「挑発的」な闘争は、国家権力の学園斗争への直接的介入は、最近の学園斗争の特徴を形成しており、それは我々の学園斗争、教育斗争の国家権力文学部等との非和解性を意味し、同時にこの「挑発的」な闘争も高度の政治性を付与されるものではない。六十年代以降の国家の教育支配政策は、戦後「民主」教育を根柢に改編し、我々学生の歴史他にならちとってきた自若さ、相対的進歩性の一切をハク奪し、粉砕する非妥協的な攻撃として進行しているのだ。したがって当然にも、我々学生は、これに反撃する非妥協的な攻撃として進行してはならない。物理的にも、思想的にも、いかにハネ返り、粉砕していくのなとして所懸を立てなければならぬ。

本館封鎖こそ我々の力の表現だ!

学友諸君、今のまじのストライキ闘争を固定的に継続していくという方針を、たゞ無力で無感望なものとしなさい。このことは、少なくともこの頃のストライキ闘争を主体的に担って来た部分にとつて、すでに共通の認識なのである。我々の筑波移転阻止の固い決意をストライキ闘争の更なる強化と拡大として早急に物質化し、具体化していかなければならない。この方向性は、我々の学内中核機構（日本館）に対する攻撃的攻撃的闘いとして進出されるべきであらう。この闘いのなか、「筑波」の背後に存在し、さまざまな運動の根源をなす国家権力之部署を我々の敵の前に引きずり出し、それとの直接的対決に至る筑波闘争全体の政治的高度化を實現していく。この本館封鎖は、それとストライキ闘争を有機的に結びつける終焉的な、なる決定的な時点に、我々は立っている。本館封鎖をもつて、すなわちストライキ闘争の内実の強化をもつて、学長評議会を我々の前にひきずり出し、彼らの根本的協議をなちとつていこう。この本館封鎖に対してさまざま「批判」がなされている。一本館封鎖は機動的に導入の事実を与えるというのな一方、「批判」である。しかし、「井辺」の導入は

我々の「挑発的」な行動により、偶発的に生起するものではない。早大、法大、東大、京大等々の例に倣うように、「挑発的」な闘争は、国家権力の学園斗争への直接的介入は、最近の学園斗争の特徴を形成しており、それは我々の学園斗争、教育斗争の国家権力文学部等との非和解性を意味し、同時にこの「挑発的」な闘争も高度の政治性を付与されるものではない。六十年代以降の国家の教育支配政策は、戦後「民主」教育を根柢に改編し、我々学生の歴史他にならちとってきた自若さ、相対的進歩性の一切をハク奪し、粉砕する非妥協的な攻撃として進行しているのだ。したがって当然にも、我々学生は、これに反撃する非妥協的な攻撃として進行してはならない。物理的にも、思想的にも、いかにハネ返り、粉砕していくのなとして所懸を立てなければならぬ。

我々の「挑発的」な行動により、偶発的に生起するものではない。早大、法大、東大、京大等々の例に倣うように、「挑発的」な闘争は、国家権力の学園斗争への直接的介入は、最近の学園斗争の特徴を形成しており、それは我々の学園斗争、教育斗争の国家権力文学部等との非和解性を意味し、同時にこの「挑発的」な闘争も高度の政治性を付与されるものではない。六十年代以降の国家の教育支配政策は、戦後「民主」教育を根柢に改編し、我々学生の歴史他にならちとってきた自若さ、相対的進歩性の一切をハク奪し、粉砕する非妥協的な攻撃として進行しているのだ。したがって当然にも、我々学生は、これに反撃する非妥協的な攻撃として進行してはならない。物理的にも、思想的にも、いかにハネ返り、粉砕していくのなとして所懸を立てなければならぬ。

本日二時、文学生大会開催中